

令和4年度阿蘇総合支援センター事業報告

I はじめに

阿蘇総合支援センターでは、生活の中で困りを抱えておられる方々の相談窓口として、或いは子供の育ちに関して不安や悩みを抱えている保護者やお子様方への相談支援機関として、特定・児童相談事業、生計困難者レスキュー事業、児童家庭支援センター等を展開しております。

また、障害児の療育体制については、「きらり」「のびのびハウス」でお子様の育ちを支援すると共に、阿蘇圏域地域療育センター機能の充実に努めてまいりました。

今後も、職員の資質の向上に努め、ご利用者に満足して頂けるような支援の提供に努めていきます。

II 全体状況報告

1 実施事業一覧 (内容については個別実施報告に記載)

事業内容等		スタッフ
らいふパートナー	●一般相談支援事業	・相談支援専門員・地域移行推進員
	●特定相談支援事業	・相談支援専門員・地域移行推進員
	●児童相談支援事業	・相談支援専門員
らいふサポート	●生計困難者レスキュー事業	・相談支援専門員・地域移行推進員
阿蘇圏域地域療育センター	●地域療育センター機能強化事業 ●巡回支援専門員整備事業	・療育相談員 ・巡回支援専門員
児童発達支援センターきらり	●児童発達支援事業 ●保育所等訪問支援事業	・児童発達支援管理責任者 ・保育士・児童指導員
児童通所支援事業のびのびハウス	●放課後等デイサービス事業 ●保育所等訪問支援事業	・児童発達支援管理責任者 ・保育士・児童指導員・指導員
へきすい元気っ子クラブ	●放課後児童健全育成事業	・支援員・指導員
児童家庭支援センターふわり	●阿蘇・菊池児童家庭支援センター事業	・ケースワーカー ・心理士
地域福祉活動	●地域食堂「あそっこ食堂」	・担当者

2 会議・研修会参加状況

月	会議 ・ 研修
4	
5	
6	

7	・熊本県地域療育関係事業所会議	・熊本県児童家庭支援センター協議会
8		
9	・発達障がい支援者養成講座	
10	・発達障がい支援者養成講座 ・相談支援従事者初任者研修	・全国児童家庭支援センター協議会
11	・療育相談員研修会	・県北ブロック研修 ・放課後児童指導員研修
12	・発達障がい支援者養成講座	
1	・発達障がい支援者養成講座	
2	・ヤングケアラー相談支援専門員研修	
3		

3 施設内会議

以下の会議について、毎月開催

【センター幹部会議】・・・主任以上

* 管理者会議の報告、行事・研修会等の企画、課題の検討等

【センター会議】・・・全職員

* 管理者会議・センター幹部会議の報告、当月行事予定等の確認、研修報告等

【指定相談支援会議】・・・相談支援専門員

* 毎月の新規プラン、更新プラン、モニタリングケースの件数確認

* 受け持ちケースの業務進捗状況の確認、困難ケースの検討、事業所内研修等

【のびのびハウス会議】・・・のびのびハウススタッフ

* 月案・週案・日案等の検討、学習会の開催、個別支援計画検討会等

【児童発達支援センターきらり会議】・・・きらりスタッフ

* 月案・週案・日案等の検討、個別支援計画検討会、事業所内研修等

【へきすい元気っこクラブ会議】・・・学童保育スタッフ

* 前月の活動報告、当面の予定・課題等の検討、研修報告等

【児童家庭支援センターふわり】・・・ふわりスタッフ

* 個別ケース会議（受理会議、支援方針会議）、学習会の開催等

III 個別事業報告について

1. らいふパートナー

(1) 一般相談支援事業

①阿蘇市・産山村相談支援事業（阿蘇市・産山村より委託）

<事業の取組>

- ・今年度も障がいを持ちながら地域で生活されている方々が、安心して暮らせるように、地域移行推進員が定期的にご自宅や職場を訪問するなどして、身近なところで相談できる体制の充実に向け取り組んだ。

・令和4年度実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
対象人数	33	34	29	35	27	28	33	31	25	35	30	28	368
支援回数	71	77	76	74	82	70	85	78	65	87	77	75	917

<課題・次年度への提起>

- ・ご自宅や職場を訪問するなどして、QOL（生活の質）の向上を見据えた取り組みを行っているが、ご本人のサービス利用に対する抵抗感など課題も多い。
- ・今後も特定相談支援事業所等とも連携を取り、ご利用者の満足につながる支援を粘り強く継続して行っていきたい。

②住宅入居者等支援事業（地域生活支援事業～阿蘇市より委託）

<事業の取組>

- ・令和4年度実績は0件
- ・阿蘇圏域においては、障がいのある方が自宅以外で生活を送る際の地域資源の少なさから、グループホームや入所施設の利用等になりがちな傾向となっている。一方で、家族と同居し、地域の支援を受けながら生活されている方も多い。

<課題・次年度への提起>

住み慣れた地域で生活を続けられるために、住宅の確保への支援は大変重要な事業であり、今後も積極的に取り組んでいきたい。

③地域移行・地域定着支援事業

<事業の取組>

- ・令和4年度実績は0件
- ・障がいのある方が、住み慣れた地域を拠点とし、本人の意向に即して、本人が安心・充実した地域生活を送ることが出来るよう、地域定着支援への取り組みを進めている。

<課題・次年度への提起>

緊急時に対応できるためには、当然ながら夜間の体制を整える必要があるが、一法人のみでは財政的負担が大きく対応できない状況が圏域の共通課題となっている。現状としては行政委託の相談支援事業や特定相談支援事業でサポートしながら地域定着に向けて支援している。今後も地域生活が継続されるための支援をしていく。

(2) 特定相談支援事業・障がい児相談支援事業

<事業の取組>

- ・ご利用者やご家族の意向を十分理解し、詳細なアセスメントやモニタリングに重点を置きサービス利用計画の作成に努めた。
- ・サービス担当者会議を開催し、ご家族やサービス提供機関と情報を共有すると共に、ご本人の頑張りを評価することにより、ご利用者が自己肯定感や将来への希望・意欲が持てるような支援を目指してきた。
- ・福祉サービスの外にもインフォーマルな社会資源の利用及び発掘に向け取り組んだ。

・コロナ感染防止のため、感染症対策に努めて面談や担当者会議を実施した。

・令和4年度実績 *計画＝サービス等利用計画

	特定	児童	計
契約件数(R4年3月時点)	136	210	346
計画作成件数(延べ件数)	106	237	343
モニタリング数(延べ件数)	261	477	738

計画数	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
	種別													
	特定相談	20	11	2	4	13	1	30	6	6	4	3	6	106
	児童相談	21	12	15	22	28	23	13	25	20	24	13	21	237
計	41	23	17	26	41	24	43	31	26	28	16	27	343	
モニタリング数	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
	種別													
	特定相談	22	11	14	21	20	54	16	11	11	19	9	53	261
	児童相談	36	40	49	33	50	30	34	45	38	44	42	36	477
計	58	51	63	54	70	84	50	56	49	63	51	89	738	
総計	99	74	80	80	111	108	93	87	75	81	67	116	1081	

<課題・次年度への提起>

- ・障がい者施設等において対象者が高齢化している中、日中活動をサポートすると共に利用者の意向を尊重し、安心・安全に暮らせるためのサービス調整を行っていく。
- ・困難事例ケースなどに対応していくため、他事業所とのネットワークづくり及び地域資源の発掘等、積極的に関わっていく。

2. らいふサポート(生計困難者レスキュー事業)

<事業の取組>

- ・生計困難者に対する制度の狭間の諸問題に市町村や社協等と連携し地域のセーフティネットとしての役割を担った。令和4年度は14件のケースに取組んだ。就労までの生活支援、債務整理手続、権利擁護利用、家計相談までの経済的支援を実施した。
- ・令和4年度実績(14ケースの相談)の内訳

項目	区分(人数)
年齢別	20歳代(2).30歳代(1).40歳代(2).50歳代(4).60歳代(3).70歳代(2)
性別	男性(9)、女性(5)
世帯別	独居世帯(5)、同居世帯(8)、本人と幼児2名(1)

<課題・次年度への提起>

- ・就労支援事業所や市町村（生活困窮者自立支援制度）との連携など、今後とも当事者の自立した生活に向け力を尽くしていきたい。

3. へきすい元気っ子クラブ（放課後児童健全育成事業）

<事業の取組>

- ・阿蘇小学校体育館2階で実施している。阿蘇市、学校、放課後子ども教室担当者、保護者との連携をより密に事業を行った。7月27日に体育館の内壁が壊れた為、急遽その日に小学校空き教室(多目的室)に移動する事になった。その後、3月16日より新施設「ふわりの杜」に引越した。
- ・新型コロナウイルスの感染症防止対策として小学校休校(1日間)、学童保育閉所(3日間)、となった。感染症予防の為、マスク着用、手洗い、消毒、黙食、検温を徹底しておこなった。
- ・令和4年度実績
開所日：285日 児童数：60名（平日・長期：35名、長期休のみ25名）
指導員：8名（うち保育士1名）
- ・令和4年度実施行事等

月	行事等内容	月	行事等内容
4	入所式、指導員会議、支援者研修	10	指導員会議
5	指導員会議	11	指導員会議、新一年生健診、支援者研修、新入生説明会
6	指導員会議、支援者研修	12	指導員会議、冬休みレク、誕生会
7	指導員会議、夏休みレク	1	指導員会議、
8	指導員会議、お誕生会、防災訓練、夏休みレク	2	指導員会議
9	指導員会議	3	指導員会議、お別れ会、

<課題・次年度への提起>

- ・安定した運営を実施するために、職場環境の整備、有資格者の雇用、支援員研修受講を積極的に行い指導員のスキル向上を図ることが重要である。

4. 阿蘇圏域地域療育センター

<事業の取組>

●障害児等療育支援事業

①訪問による療育相談

<実施件数>

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施件数	2件	1件	1件	0件	1件	1件	0件	2件	5件	2件	2件	2件	19件

(就園児17名 小学生2名)

②外来による専門的な療育相談

<実施件数>

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施 件数	1件	4件	6件	1件	4件	5件	5件	6件	4件	6件	6件	5件	53件

(未就園児2名 就園児17名 小学生4名 中学生2名 高校生1名)

・親子ひろば「タッチ」

年間通して7家族の利用があり、今年度は阿蘇市のみならず、産山村、南阿蘇村、西原村から保健師、村の療育相談員、保育園、相談支援専門員などからの紹介でつながった。

・FFF（スリーエフ）クラブ

昨年度利用児童の利用が終了し、今年度は1名の中学生の家族全体が多くの課題を抱えているケースの利用があった。

・子育て講座における市町村との連携

市町村が実施する子育て講座に対し2町村と連携し2次圏域として参加した。

③各種研修会

・ペアレントトレーニング（1クール7回で実施）

3名の保護者が受講、医療関係と通所支援事業所、行政から4名のオブザーバーが参加した。また、今年度はフォローアップを昨年度の受講者にも案内し、オブザーバーも参加して実施、同じ思いを持つ保護者同士が集まる場になった。

・保育園・幼稚園職員向け研修会（1クール8回中6回で実施）

「発達障がい児支援者連続講座及び事例検討」に18名の職員が参加。

今年度もコロナ禍が大きく影響し、園最後まで受講できたのは11名にとどまったが、講座で提出されたホームワークの内容や事例検討での意見・提案を通じて、4年前のこの講座の初回に比べ受講者個人だけでなく園全体の質が上がっていると感じている。

・医療的ケア児の支援に関する研修会

小児在宅医療支援センター小篠医師に講師を依頼し、阿蘇圏域で研修会を実施。行政関係13名、通所支援事業所、相談支援事業所より16名の参加があった。特に通所支援事業所の母体となる法人等から看護師等の参加もあり、関心の高さが伺えた。

・就学に向けての学習会

学習会の内容は阿蘇市教育委員会にも確認を取り、保護者13名、園8名、行政1名、事業所等8名の参加があった。

・放課後児童クラブ職員研修（1クール3回で実施）

阿蘇市福祉課からの依頼を受け、市内の放課後児童クラブの職員に対し「子どもの困りを考える」と題し、発達障がいの疑似体験やケース検討等を行った。

④ 施設支援

・新規事業所に対し児童発達支援センターきらりと連携しながら、見学研修を6月に実施。

年3回計画ではあったがコロナ禍の影響により1回のみにとどまった。

・阿蘇圏域障害児通所支援事業所連絡会を児童発達支援センターきらりと連携しながら進めていった。

⑤ その他の取組

<ペアレントメンター事業に向けた活動>

- ・熊本県障がい支援課、熊本県発達障がい者支援センターわっふると共に阿蘇医療センター、阿蘇温泉病院に出向きペアレントメンター事業の説明を行った。
- ・年間通してペアレントコーディネーターとして、関連する研修会や茶話会に参加した。

<令和4年度地域療育センター療育相談員研修・会議の参加>

令和4年11月11日療育相談員研修・会議に参加した。

<教育分野との連携>

- ・阿蘇郡市特別支援連携協議会（教育事務所）及び阿蘇市特別支援連携協議会（阿蘇市教育委員会）と連携し情報交換等を行った。
- ・熊本県SSW活用事業における阿蘇地域連絡協議会に参加した。
- ・西原村教育委員会からの依頼を受け、講話の後、保護者、民生委員、学習支援員、学校コーディネーターの参加者に子どもの行動の見方についてグループワークで意見交換を行った。

<課題・次年度への提起>

コロナ禍で地域連携の拠点となるべく会議等が紙面決議になるなどしたことで、圏域の療育の課題等が共有しにくくなっていたと感じている。

次年度は、これまでの取り組みを継続しながらも圏域の療育の課題を再度整理し、一方で、阿蘇自立支援協議会子ども部会、子ども家庭庁の動向ともすり合わせながら、地域療育センターの役割を一から見直し組み立てていきたい。

●巡回支援専門員整備事業（市町村事業）

<事業の取組>

巡回実施総件数：136回

<保育園、幼稚園>

年数を重ねる中で、助言を求めることが主流の傾向から、意見を出し合い支援の手立てを一緒に見つけていく傾向へと変わってきているようになっている。

いくつかの園では、一つのクラスに絞って年間を通して訪問し、子どもの困った行動をどう捉えるとよいか、それに合わせた関わり方や環境の工夫を考え、観察記録の工夫についても話し合った。その結果、その支援についての効果の確認や見直しが一緒にできた。

また、「この子の関わり方を教えてほしい」「この子の保護者にどう伝えればよいか相談したい」という声が多かったが、阿蘇圏域地域療育センターが主催する「保育園・幼稚園職員連続講座」と連動させながら支援していく事が出来た園もあった。

巡回実施件数：89回

<放課後児童クラブ>

子どもの行動を観察する視点を増やし、「チームで取り組む」という意識を高める事を目的に支援を進めていったが、中でも阿蘇市では、福祉課からの依頼で阿蘇圏域地域療育センターが開催した研修会「子どもの困りを考える」でも、子どもの困った行動の捉え方やチームで取り組む大切さについて伝え、巡回支援と連動させた。

巡回実施件数：24回

＜子育て支援センター＞

年間通して、室内大型遊具や手作りおもちゃを持ち込み、乳幼児の身体や言葉の発達を促すことに着目したあそびを提供した。

スタッフからは、子どもの行動や発達について相談を受ける際の着眼点や見識が広がり、日々のセンターの活動に繋げるなどできたと一定の評価を頂いた。

巡回実施件数：23回

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施 件数	5件	16件	18件	20件	7件	11件	13件	15件	5件	6件	15件	5件	136件

＜課題・次年度への提起＞

一次圏域のそれぞれの職員のスキル向上は高まっていると感じるものの、個人差は大きく、クラス担任が一人で抱え込む傾向になるなど、園全体での共有、協力体制が思うように進まない現状の園もあり、チームワークの支援の重要性を感じている。

事業元である市町村と事業の目的と質について再度見直し、ニーズに沿った支援を行っていききたい。

5. 児童発達支援センターきらり

＜事業の取り組み＞

(1) 児童発達支援

①グループ療育

- ・個別支援計画の目標に沿った療育プログラムを、就学前のお子様に対して、小グループで設定されたグループ療育及び保護者同伴による家族療育に取り組んだ。
- ・今年度も家族療育やグループ療育では、コロナ禍により大きな行事は自粛や見合わせを行ったが、活動の内容の工夫や場所、人数等の配慮等を行い、家族同士の交流や活動を楽しむ事ができた。
- ・感覚統合では、遊具を用いて手足の筋力を促す遊びの支援や適切な身体の動かし方等、体幹保持に繋がる遊びの支援を行った。又、OTによる感覚過敏のある児の事例検討の施設内研修を行い、感覚特性の分析と評価、今後の目標と遊びの視点についてスタッフ間で考え合うことができた。

②個別療育

- ・グループ療育で関わりが不足する内容を児に合わせた療育プログラムを、専門スタッフが児にマンツーマンで支援を行った。
- ・今年度、8名の年長児において就学前の準備に向けた1年生になる為の支援や、法人内の放課後デイサービスの見学と交流を兼ねた体験型の療育に参加して頂きスムーズに移行できるよう支援を行った。

③施設内研修

- ・今年度も心理士による心理相談や発達検査の実施を行った。又、施設内研修を2回実施し、発達障害の理解や関わり方について学び、2回目に事例検討を行い、見たてに

ついてスタッフ間で考え合う事ができた。

- ・言語聴覚士による施設内研修で、言語発達学と発達障害のとらえ方について学び、理解を深めることができた。
- ・身辺自立について関わり方や進め方等、施設内研修を行った。スタッフ間で着脱の手順を考え、支援する側のポイントや自立に向けた支援方法を考え合う事ができた。

(2) 保育所等訪問支援

- ・今年度もコロナ禍で訪問の自粛もあり実施が困難であった。
- ・保育園・幼稚園への送迎時、園・事業所での児の様子や関わり方について、情報を共有し助言や適切な支援の充実、連携に努めた。

(3) 令和4年度利用状況（延べ人数）

〔児童発達支援〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	103	116	119	86	91	75	106	92	58	99	158	160	1263

〔保育所等訪問支援〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(4) 防災・防犯訓練

- ・総合訓練を1回実施 : R4. 11. 21
- ・避難訓練を8回実施 : R. 4. 20、R4. 5. 16、R4. 6. 21、R4. 8. 22、R4. 9. 20
R4. 10. 19、 R4. 12. 13、R5. 1. 18、R5. 2. 20、
R5. 3. 14
- ・震災訓練を1回実施 : R4. 7. 20

<課題・次年度への提起>

○児童発達支援実施

- ・新規事業所の見学実習受け入れを行い、阿蘇圏域の通所支援事業所のレベルアップを図っていく。
- ・阿蘇圏域の通所支援事業者の課題を掘り下げ、具体的で実践的な取組を模索していく。

○保育所等訪問支援

コロナ禍で保育園訪問は難しかったが、次年度は積極的に実施していきたい。

○阿蘇圏域通所支援事業所連絡会

昨年度は6月、12月、2月の3回の連絡会議が実施できた。今年度も地域療育センターと連携し阿蘇圏域の通所支援事業所と交流の場や連携を図り、阿蘇圏域の地域療育の資質向上を目指していきたい。

○親子広場「タッチ」

受給者証を持たない児への支援を地域療育センターと連携して実施した。新規利用にも繋がっている。今後も継続していく。

6. のびのびハウス

<事業の取り組み>

個別支援計画書作成と連動してサポートシェア表を作成することで、スタッフ間の支援の共有を視覚化した。しかし、作成が遅れ気味になってしまう傾向は続いているため、今後フローチャートを改善していきたい。

○支援内容の共有化

ミーティング内容の改善を繰り返し行うことで、個々の課題に沿った支援をスタッフ間で共有しながら提供できるようにしていった。今後は、効率よく業務にあたることのできる体制の組み立てを図っていきたい。

○新型コロナウイルスの対応

昨年同様、学校の休校、学年閉鎖・学級閉鎖、家族感染などが多発したが、都度学校・保護者・関係機関・行政などとの情報の共有を密に行いながら、感染拡大防止に努めた。

○体験活動の充実

コロナ禍で活動が制限される中、主に土曜日祝日や長期休業時に創作活動や地域生活体験、自然体験などを提供する事が出来た。今後は、児童の将来の自立した生活の実現につながる内容が図られるようにしていきたい。

○定期的な保育所等訪問の実施

コロナの状況を見ながら落ち着いた時期に集中して訪問を計画し、実行することができた。学校・保護者との連携を図り、日々の療育に繋げた。

令和4年度利用状況（延べ人数）

●放課後等デイサービス

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	289	304	316	283	268	292	317	273	285	257	284	289	3,457

●保育所等訪問支援

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	0	2	5	0	0	2	1	6	0	4	4	1	25

年間通して実施した施設内外研修は、利用児の課題の見立て、視覚支援の活用、それぞれに合わせた関わり方、主活動のバリエーションの広がりなどに反映され、スタッフのスキル向上につながってきている。今後も、よりスキル向上を図りながら、保護者と地域に求められる事業所を目指していきたい。

① 情報発信

- ・SNS (LINE@) では、保護者から家庭や学校の様子の情報提供や、悩みのご相談が入り、リアルタイムで情報の共有や助言ができ、保護者の安心につながっている。

<課題・次年度への提起>

(1) 課題・次年度への提起

- ・個別支援計画書作成と連動してサポートシェア表を作成することで、スタッフ間の支援

の共有を視覚化した。しかし、作成が遅れ気味になってしまう傾向は続いているため、今後フローチャートを改善していきたい。

- ・小学高学年以上の利用児の更新が増え、この現象が続いていくと見込まれる。児童の将来の自立した生活の実現につながる内容が支援に図られ、より保護者や学校と連携していけるようにしていきたい。

7. 児童家庭支援センター ふわり

<事業の取り組み>

① 地域・家庭からの相談に応じる事業

項目	電話 相談	来所 相談	訪問 相談	心理 療法	メール 相談	手紙 相談	その他 相談	相談 延件数	相談 実人数
件数	1,140	121	519	276	90	1	15	2,162	98

【地域別相談延べ件数】 () 内は実人数

- ・阿蘇市 965件(35人)
- ・南小国町 2件(1人)
- ・小国町 195件(10人)
- ・産山村 13件(2人)
- ・南阿蘇村 275件(4人)
- ・西原村 30件(2人)
- ・菊池市 350件(12人)
- ・合志市 159件(13人)
- ・大津町 129件(6人)
- ・菊陽町 30件(3人)
- ・高森町 2件(2名)
- ・その他 12件(8人)

② 要保護児童対策地域協議会

代表者会議 3件(菊陽町、西原村、合志市)

研修会 1件(大津町)

ケース会議 21件(南阿蘇村、阿蘇市、小国町、菊池市等)

③ 個別支援会議

34件(市町村、学校、医療機関、福祉施設、訪問看護ステーション等)

④ 個別ケース情報共有

855件(市町村、学校、医療機関、福祉施設、訪問看護ステーション等)

⑤ 研修会講師及び助言

6件(阿蘇地域療育センター等)

⑥ 関係機関との連絡会議

16件(中央児童相談所、児童家庭支援センター、県子ども家庭支援課、SSW等)

⑦ 先進地視察

1件(福岡県甘木山児童家庭支援センター)

⑧ 市町村説明会

1件(菊池・阿蘇圏域市町村への児童家庭支援センターに関する説明会)

⑨ その他研修等

8件(熊本県産前・産後母子支援事業報告会・研修講演会、児童家庭支援センター全国大会等)

<課題・次年度への提起>

- ・関係機関と連携し、個別ケースに応じた地域ネットワークづくりを行う。
- ・事例検討会、外部研修、施設内研修等を行い、職員のスキルアップを行う。

8. 地域食堂

<事業の取り組み>

令和元年度から、阿蘇管内の子ども達が元気ですくすくと育っていけるよう、阿蘇の子ども達の「憩いの場」「交流の場」「体験の場」として地域食堂「あそっこ食堂」を開設していたが、令和2～4年度は新型コロナの影響で休止した。

<課題・次年度への提起>

令和5年度は、新型コロナの状況をみながら実施を検討したい。